

## 都道府県別の平成22年産水稻の生産事情

平成22年 3 月16日

農林水産省統計部

# 都道府県別の平成22年産水稻平年収量の生産事情

注:品種名の後の()は平成21年産作付面積割合

|     | 生 産 事 情                                                                                       |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北海道 | 「ななつぼし」(約3割半)、きらら397(約3割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米の安定生産に向け、適正施肥量の遵守等の指導が行われている。            |
| 青 森 | 「つがるロマン」(約5割半)、「まっしぐら」(約4割強)を中心とした品種構成に大きな変化はない。適地適品種の作付けと適正な施肥管理の徹底等の指導が行われている。              |
| 岩 手 | 「ひとめぼれ」(約6割半)、「あきたこまち」(約2割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適地適品種の作付け、高品質・良食味米の生産が推進されている。                |
| 宮 城 | 「ひとめぼれ」(約8割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。特別栽培米等の高品質・良食味米生産推進のため、適切な肥培管理等の指導が行われている。                   |
| 秋 田 | 「あきたこまち」(約8割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米生産推進のため、適切な肥培管理や栽培履歴の管理等の指導が行われている。                 |
| 山 形 | 「はえぬき」(約6割強)、「ひとめぼれ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上技術、環境に配慮した栽培や特別栽培米推進のための技術の徹底等の指導が行われている。   |
| 福 島 | 「コシヒカリ」(約6割半)、「ひとめぼれ」(約2割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。「環境と共生する米づくり」のため、特別栽培米等の作付拡大が推進されている。           |
| 茨 城 | 「コシヒカリ」(約8割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適期適量の施肥等の指導が行われている。                                          |
| 栃 木 | 「コシヒカリ」(約8割強)、「あさひの夢」(約1割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。生育診断に基づく適正な水管理、穂肥等の指導が行われている。                  |
| 群 馬 | 「あさひの夢」(約3割強)、「ゴロピカリ」(約3割)、「コシヒカリ」(約2割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品種特性、気象条件に対応した施肥等の指導が行われている。      |
| 埼 玉 | 「コシヒカリ」(約3割半)、「彩のかがやき」(約3割弱)、「キヌヒカリ」(約2割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質・食味向上を最重点とした肥培管理の徹底等が指導されている。 |
| 千 葉 | 「コシヒカリ」(約6割半)、「ふさこがね」(約1割半)、「ふさおとめ」(約1割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適正な施肥・水管理の徹底等が指導されている。           |
| 東 京 | 「コシヒカリ」(約4割弱)、「キヌヒカリ」(約3割半)、「アキニシキ」(約2割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。                                 |
| 神奈川 | 「キヌヒカリ」(約6割半)を中心に、収量水準の高い「さとじまん」(約1割半)の作付割合が増加している。品質向上に向けた適切な施肥・水管理等の指導が行われている。(資料No8参照)     |
| 新 潟 | 「コシヒカリ」(約7割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。良食味・高品質米の生産に向けて作期是正、過剰生育防止、適期刈取り等の指導が行われている。                 |
| 富 山 | 「コシヒカリ」(約8割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。直播栽培の拡大による作期の分散、土壌診断による適正な基肥施用等の指導が行われている。                   |
| 石 川 | 「コシヒカリ」(約7割半)、「ゆめみづほ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。緩行性肥料の普及等、品質管理を中心とした指導が行われている。                 |
| 福 井 | 「コシヒカリ」(約6割半)、「ハナエチゼン」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高温登熟回避による品質向上のため直播栽培が推進されている。                 |
| 山 梨 | 「コシヒカリ」(約7割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。倒伏防止、良食味に向けた基・穂肥時の窒素成分抑制等の指導が行われている。                         |
| 長 野 | 「コシヒカリ」(約7割半)、「あきたこまち」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。良質米生産に向けた適正時期の追肥等の指導が行われている。                  |

# 都道府県別の平成22年産水稻平年収量の生産事情

注:品種名の後の()は平成21年産作付面積割合

| 生 産 事 情 |                                                                                                  |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岐 阜     | 「ハツシモ」(約3割半)、「コシヒカリ」(約3割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適地適作を基本に温暖化傾向に対応するため、遅植え、疎植栽培等の指導が行われている           |
| 静 岡     | 「コシヒカリ」(約4割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。売れる米づくりのため、適量・適期穂肥施肥、適期防除・刈取りの徹底等の指導が行われている。                    |
| 愛 知     | 「あいちのかおり」(約4割半)、「コシヒカリ」(約3割弱)、「あさひの夢」(約1割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。施肥改善と基本技術励行による品質改善等の指導が行われている。    |
| 三 重     | 「コシヒカリ」(約8割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上対策として、品種に応じた適期・適量施肥等の指導が行われている。                             |
| 滋 賀     | 「コシヒカリ」(約4割弱)、「キヌヒカリ」(約2割半)、「日本晴」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。登熟期の高温を緩和するため遅植え等の指導が行われている。          |
| 京 都     | 「コシヒカリ」(約5割半)、「キヌヒカリ」(約2割強)、「ヒノヒカリ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。登熟期の高温回避、過剰分げつ抑制等の指導が行われている。        |
| 大 阪     | 「祭り晴」に代わり収量水準が高い「きぬむすめ」(約1割)の作付けが開始された。品種別、地域別に適期移植等の指導が行われている。(資料No8参照)                         |
| 兵 庫     | 「コシヒカリ」(約4割弱)、「キヌヒカリ」(約3割弱)、「ヒノヒカリ」(約2割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。良食味化の推進、適期防除による農薬の低減等の指導が行われている。    |
| 奈 良     | 「ヒノヒカリ」(約7割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上のため、減肥栽培等の指導が行われている。                                         |
| 和 歌 山   | 「キヌヒカリ」(約4割半)を中心に、収量水準が高い「ヒノヒカリ」(約1割)の作付けが増加している。一等米比率向上のため適期防除・適期収穫・早期落水防止等の指導が行われている。(資料No8参照) |
| 鳥 取     | 「コシヒカリ」(約5割半)、「ひとめぼれ」(約3割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品種ごとに食味向上に向けた施肥管理等の指導が行われている。                     |
| 島 根     | 「コシヒカリ」(約7割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。健苗育成や適正な肥培管理等による気象変動に強い稲体づくりの指導が行われている。                         |
| 岡 山     | 「ヒノヒカリ」(約2割半)、「アケボノ」(約2割弱)、「コシヒカリ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。早期落水防止等の指導が行われている。                   |
| 広 島     | 「コシヒカリ」(約4割弱)、「ヒノヒカリ」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。低コスト・省力化に向け疎植栽培が集落法人を中心に広がりを見せている。                |
| 山 口     | 「コシヒカリ」(約3割半)、「ヒノヒカリ」(約2割半)、「ひとめぼれ」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適正な水管理の徹底、栽培密度の確保等が指導されている。         |
| 徳 島     | 「コシヒカリ」(約5割)、「キヌヒカリ」(約3割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。育苗の低コスト・省力化に向けた疎植栽培・乳苗移植等が指導されている。                 |
| 香 川     | 「ヒノヒカリ」(約4割半)、「コシヒカリ」(約3割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上に向けて田植え時期の適正化等の指導が行われている。                     |
| 愛 媛     | 「ヒノヒカリ」(約3割強)、「コシヒカリ」(約3割弱)、「あきたこまち」(約3割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上に向けて適正な水管理や施肥量等の指導が行われている。     |
| 高 知     | 「コシヒカリ」(約5割半)、「ヒノヒカリ」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高温対策として適正な水管理や遅植え指導等が行われている。                      |

# 都道府県別の平成22年産水稻平年収量の生産事情

注:品種名の後の()は平成21年産作付面積割合

| 生 産 事 情 |                                                                                                         |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 福岡      | 「ヒノヒカリ」(約4割半)、「夢つくし」(約4割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適期移植による高温障害の回避、土壌診断・施肥基準に基づく適切な施肥等の指導が行われている。             |
| 佐賀      | 「ヒヨクモチ」(約2割半)、「夢しずく」(約2割半)、「ヒノヒカリ」(約2割)を中心とし、温暖化による品質低下の問題に対応するため「ヒノヒカリ」に替わり良食味の「さがびより」の作付拡大を図っている。     |
| 長崎      | 「ヒノヒカリ」(約6割半)への集中を回避するため耐高温性の奨励品種「にこまる」(約1割)の作付拡大を図っている。温暖化対策として遅植えの指導を行っている。(資料No8参照)                  |
| 熊本      | 「ヒノヒカリ」(約5割弱)、「森のくまさん」(約1割半)、「コシヒカリ」(約1割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上のため適期移植、間断かん水等の指導等が行われている。            |
| 大分      | 「ヒノヒカリ」(約7割半)、「ひとめぼれ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高温による品質低下抑制のため作期の後進化、水管理の徹底等の指導が行われている。                  |
| 宮崎      | 早期は「コシヒカリ」(約4割強)を中心とし、普通期は「ヒノヒカリ」(約5割強)を中心に、収量水準が高い「まいひかり」の作付けが増加している。土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。(資料No8参照) |
| 鹿児島     | 「ヒノヒカリ」(約6割半)、「コシヒカリ」(約2割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。良食味米生産にむけた適期移植、適正な栽植密度の確保等の指導が行われている。                    |
| 沖縄      | 「ひとめぼれ」(約8割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。                                                                       |